

特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

目的

市では乳幼児期に健診を実施しており、その中で発達に遅れがみられた幼児に対しては、健診後にフォロー教室や相談事業を実施し支援を行っている。また保育所・幼稚園や児童発達支援事業所に通所・通園し、支援を受けている子どももいる。

このような特別な支援を必要とする子どもが就学するにあたり、家庭での子どもの状態や保育所等での支援内容・方法などの情報が就学先に引き継がれておらず、支援に活かされていないことから、引継ぎ体制の構築を目指す。

成果

保護者への働きかけや保育所等への協力依頼などにより、徐々に『サポートノート』に対する認知度が高まってきている。現在では就学相談を受ける子どものうち、約8割の子どもの保護者が『サポートノート』を持ち、就学先（小学校）に渡している。

『サポートノート』は子どものライフステージの変化にあわせて引き継がれて行くことが重要であるため、今後は、小学校や中学校、高校などに対して、『サポートノート』の活用についてさらなる周知を図っていく。

事業内容

乳幼児期に関わりを持った市の保健師や保護者、保育所・幼稚園、児童発達支援事業所が、就学前に子どもの状態や支援内容・方法などの情報を一冊のノート『サポートノート』にまとめ、それを就学先（小学校）に渡すことで子どもの情報を引き継ぐ。

また、その後も支援を継続していけるよう、その就学先でも就学期間中の子どもの様子等を『サポートノート』に記入・追加していき、次の進学先、さらにその次の進学先や就職先へと子どもの情報を引き継いでいく。

